

2022年2月2日

Resilient UHCに含まれる結核を含む三大感染症等の今ある緊急課題への対応について

主な該当部分の要旨

3.1 Resilient UHC の Challenge a および Challenge b では、WHO の現行モニタリング指標は、パンデミックのような緊急事態を効果的に予防し、対応するために必要な能力を反映しておらず、新型コロナのような新規病原体に対してより強いものにするために、統合的、相互運用的、かつ学際的で部門横断的なサーベイランス能力や人材の能力強化することが極めて重要としている。そして 4. Proposals for the G7 agenda の Recommendation 1-1 および 2-4 では、UHC と PPR の結束を強化し、G7 は PPR 強化に必要な PHC の中核を再定義し、各機関が PHC 支援の目標比率設定を主導する必要があり、UHC 達成の道筋が国により異なることを念頭に置きながら、G7 は UHC 達成に向けたロードマップ(進捗のモニタリングと評価の枠組み含む)策定を支援するとしている。

提 案

- G20 インドの保健課題では「結核」を焦点の 1 つとしている。また国連総会ハイレベル会合では、「結核」と「UHC」、「PPR」の会合が同時に開催される。グローバルヘルスの議論の中で「結核」は重要なキーワードの 1 つである。G7 の議論においても「結核」と「UHC」、「PPR」との繋がりは重要であり、キーワードとして「結核」をハイライトして頂きたい。日本は、2018 年の第 1 回目の「結核に関する国連総会ハイレベル会合」で共同ファシリテーターを務め、結核終息に向けた誓約をとりまとめた経緯もある。
- 結核対策は保健システムやプライマリヘルスケアの必須要素を多く含み、UHC と PPR を強化し、また非常時と平時の対応を繋ぐものでもある。UHC と PPR の結束を強化する中で、G7 が支援する新しい評価の枠組みやロードマップ等の中で、結核対策が効果的に機能するようにして頂きたい。

岸田総理のランセットへの寄稿で示しておられるように、Resilient UHC には、HIV/AIDS、結核、マラリア、顧みられない熱帯病(NTDs)といった感染症など、新型コロナパンデミックにより大きな打撃を受けた既存の緊急課題も含まれ、これらの課題も Resilient UHC 達成の中で対応をしていくと理解している。

UHC と PPR の結束を強化すること:部門横断的なサーベイランスや非常事態への能力強化は、パンデミックで大きな打撃を受けた上記感染症等の個別疾病対策(縦軸)にとっても極めて重要なことである。横軸と縦軸が二項対立でないことは十分に承知しているが、資源が限られている中でパンデミックにより終息への道程から大きく外れてしまった結核対策などの今の緊急課題への縦方向の注力や注目が薄くなることを懸念している。どのように結核対策のような縦軸が、Resilient UHC を達成する為に効果的に機能できるのか、縦軸、横軸の相互補完を改めて考えることは重要である。結核対策のような保健システムやプライマリヘルスケアの必須要素を多く含みUHCとPPR強化する縦軸が、UHCとPPRを強化する中で効果的に機能するように、そして縦軸自体も強くなるように配慮を頂きたい。結核対策のような縦軸を効果的に活用することは、部門横断的な非常事態への構えと平時の対応を繋ぎ、Resilient UHC を強くすると考える。